

令和5年度 碧南市市史資料收藏品展

「土人形展 ～三河土人形の 中心地・碧南～」



「一の谷」熊谷直実：鈴木市太郎・初太郎作

令和5年 **11月11日(土)～12月7日(木)**

午前9時～午後9時 月曜日休館

会場：**碧南市文化会館**（碧南市源氏神明町4）1階 展示室1 <観覧無料>

主催：碧南市教育委員会 所管：碧南市文化財課・市史資料調査室

ギャラリートーク：会場にて担当者が展示の説明をします。参加費無料、事前申込不要

11月18日(土)、12月2日(土) 午後2時～(30分程度)

令和5年度 碧南市市史資料収蔵品展

「土人形展 ～三河土人形の中心地・碧南～」

令和5年11月11日(土)～12月7日(木)

本年度は碧南市市制 75 周年の年となります。現在、碧南市は臨海部に多くの工場等が集まり、工業生産額の第一位は自動車関連の機械となっています。しかし、75 年前に碧南市制が始まった頃は、生産額の一位は瓦を中心とした窯業関連の製品でした。御存じの通り、これは碧南市が良質な粘土に恵まれ、18 世紀の後半には瓦造りが始まり、三州瓦の中心地の一つとして発展してきたためでした。

瓦以外にもこの良質な粘土が生み出したものとして、今では人々に忘れ去られてしまった土人形があります。土人形は京都の伏見でつくられたものが全国に広まり、各地で作られるようになったものです。碧南市域でも幕末から明治にかけて、数多くが作られるようになりました。三河各地で作られた土人形が三河土人形と呼ばれる中、碧南市はその生産の中心地でした。

そんな碧南での土人形作りも人々の生活が豊かになった昭和 30 年代に入ると、衣装雛に押されて消えていきました。しかし、全国の多くの土人形愛好家の熱心な要望を受け、大浜地区の禰宜田家では昭和 40 年代に、旭地区の高山家では平成に入ってから土人形作りが再開されました。

愛知県内で現在も土人形作りが続けられているのは、半田市の乙川土人形、碧南市の大浜土人形と旭土人形の 3 か所のみです。三河地方に限定すれば、碧南市のみとなります。近年、新たに多くの土人形が寄贈されたので、それらを中心に令和 5 年度の市史資料収蔵品展において碧南市の土人形とその歴史をご紹介します。



「牡丹持ち童子」
岡本重太郎・開太郎作



「仮名手本忠臣蔵・一力茶屋」
大星力弥、大星由良助：高山八郎作

8月26日(土)～11月26日(日)に藤井達吉現代美術館地下展示コーナーにおいても土人形展示中



収蔵品展に先駆けて、藤井達吉現代美術館の地下展示コーナーにおいて、土人形を展示しています。大浜土人形の名品とされる高さ 50 cm を超える左の「賤ヶ岳」(禰宜田章作)も展示していますので、ぜひご覧ください。

碧南市教育委員会 文化財課
市史資料調査室
TEL(0566)41-4566

〒447-0872
愛知県碧南市源氏神明町2
市民図書館中部分館 2階